

普及活動情勢報告（令和３年２月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

広域連携の推進に向けて！・・・土佐清水市営農推進協議会ドローン防除部会設立総会・・・



１月２０日に土佐清水市中央公民館で土佐清水市営農推進協議会参加組織（（農）ふぁー夢宗呂川、（農）三崎、（農）かぐみ、斧積営農組合）の９名と関係機関４名が集まり、「土佐清水市営農推進協議会ドローン防除部会」の設立総会が行われました。

ドローン防除部会は、昨年１２月１５日に設立した広域連携組織の部会で、各組織のドローンオペレーターが参加し、今年度からドローン２台を使った共同防除に取り組みます。

今後は、ドローンの運用やオペレーター育成について協議していく予定で、農業改良普及課では、こうした取り組みの支援を行っていきます。

（公財）三原村農業公社のユズ生産をスマート農機で支援！

・・・「労働力不足解消に向けたスマート農業実証」推進会議の開催・・・



１月２６日に、（公財）三原村農業公社を代表機関とするコンソーシアムの第２回推進会議が三原村で開催され、構成する６機関と専門ＰＯ（プログラム・オフィサー）の１６名により、今年度の実施内容について協議が行われました。

農業改良普及課は、コンソーシアムの進行管理役として、成果のとりまとめや会の開催を支援しました。

今後は、実証成果の最終とりまとめとともに、スマート農業の普及について支援していく予定です。

気象条件によって、剪定も肥料も変えましょう！・・・三原村農業公社ユズ剪定講習会・・・



２月４日、三原村農業公社のユズ園で剪定講習会が開催され、作業員と研修生（計１３名）が参加しました。

農業改良普及課からは、気象条件によって剪定だけでなく、施肥量も変えなければ、安定した収量を確保出来ないことを説明しました。また、樹形にとらわれすぎて過度に葉を剪除すると、トゲが長い枝が増えることを強調し、剪定を実演しました。現段階では花芽の多少は判断出来ないの、剪定量を抑制することの必要性は理解が得られました。

今後も作業性と収量・品質のバランスの取れた肥培管理技術の習得に向けて指導していきます。

集落を守るために法人化を！

・・・黒尊川営農組合役員会・・・



2月10日、奥屋内集会所で役員5名、関係機関4名が参加し黒尊川営農組合役員会が開催されました。営農組合では、昨年10月から法人化に向けて本格的に取り組もうという気運が高まり、1ヶ月に1回は役員会を開催しています。

役員会では、今後の法人化に向けてのスケジュールの確認や営農組合総会での資料作成などについて協議しました。営農組合の法人化の必要性は理解され、役員も積極的に「どう説明したらいいだろうか」などの発言がありました。

農業改良普及課は、営農組合の法人化を支援していきます。